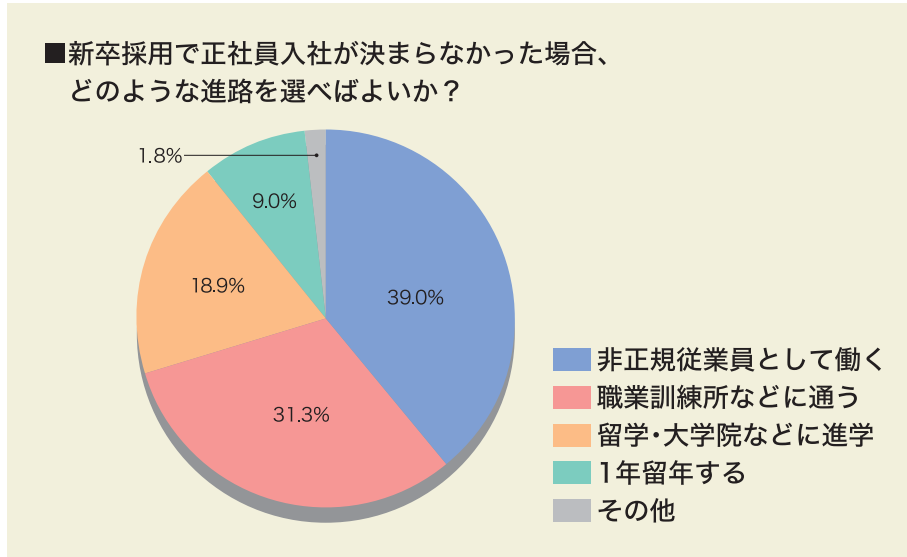


# 「就職できない場合、非正規従業員として働く」 4割

NUMBER



今回は、産業能率大学による「就職氷河期がみた昨今の雇用情勢」アンケート(2009年3月実施)の内容を紹介します。

同調査の対象は、当時の29～33歳の正規従業員1000名。つまり、2000年前後の「就職氷河期世代」が、現代の雇用情勢をどう見ているかを示しています。

グラフの回答は「非正規従業員として働く」「職業訓練所などに通う」といった働く選択肢と、「留学・大学院などに進学」「留年」といった学生にとどまる選択肢があります。就職氷河期世代の7割が「就職が決まらなくても、とにかく働く」という回答をしています。

新卒採用は景気の影響をもろに受けやすいものです。一方で、買い手市場も売り手市場もずっと長い間続くものでもありません。正社員として就職するために、留年や進学で社会に出ることを先延ばしするよりも、実際に働くことによって得られる経験やスキル、社会人としての視座を1年でも早く獲得するほうが有意義だと、就職氷河期世代は考えているようです。